

予算の執行状況に関する調査

[議事録 3/6]

サイバー攻撃に対する現状把握と各種認識

- ・情報セキュリティ政策に政務が関与する必要性
- ・高度情報セキュリティ人材を育成する必要性

○吉川沙織君

これらの問題に対しましては、現在は内閣官房情報セキュリティセンター、NISCを中心として、総務省、経済産業省、防衛省、警察庁の関係省庁が協力するという体制の下で一定の成果は上げているものの、どうしても縦割りの側面があることは否めないと思います。

経済国家、IT国家である日本がその成長力を失わないまま、一方で、安全保障面にも目配りを怠らないというバランスが求められるからこそ見える形で政務が関与する必要があると思いますが、官房長官お願いします。



○国務大臣(藤村修君)



今おっしゃったNISCは官房に設置されていますが、その上にといいますか、内閣官房長官ほか5名の閣僚、それから6名の民間有識者を構成員とする情報セキュリティ政策会議というものを置いています。

情報セキュリティ政策が現代社会において国家の安全保障、危機管理上、また経済政策上の重要な課題と認識しております。

政務の関与と今おっしゃいました。その在り方についても、今後更にどのような対応が可能か、御意見を踏まえながら検討していきたいと思います。

○吉川沙織君

今、情報セキュリティ政策会議の構成員、閣僚は 5 名という御答弁をいただきました。ただ、外務大臣はこの 2 回、正式な構成員ではなくて、必要があれば出席ができるという形になっていますけれども、そこでちょっと総理にお伺いしたいと思います。

去年 10 月 7 日の政府の情報セキュリティ政策会議において、「外交において、各國はトップレベルから情報セキュリティについて強いメッセージを発信している。我が国も、日本が有する技術の信頼性の高さについて、トップレベル外交で情報政策の心構えを世界に向けて発信し、それを実現する体制を構築することが重要である。」という指摘があった会議の後、外務大臣も参加なさっております。



だから、政治が表に出て、顔が見える、そういう発信を日本としてやっていかなければならないからこそ政治レベルでの専担の責任者が必要ではないかと考えますが、総理の御所見、少しお伺いしたいと思います。

○内閣総理大臣(野田佳彦君)



先ほど来の質疑を聞いておりまして、改めましてその重要性というものをしっかりと把握をさせていただいたつもりでございますので、今の御指摘を踏まえた対応をしていきたいと思います。

○吉川沙織君

今、どちらかといえば政治の側の話をしましたけれども、この問題に関しては国民各層の知識も上げていかなければならないという問題がございます。

例えば、それぞれ皆さんお持ちのパソコンにアンチウイルスソフトを入れていても、それは日々アップデートをしなければ新手のウイルスには対処をすることができない、そういう状況がございます。

一方で、我が国を代表するような高度なセキュリティ人材を育成していくことも重要であり、大学にもその役割が求められていると思います。ただ、この世界、日進月歩ですから、一つの大学、一つの学部でも対応できる、そういう状況ではございませんので、我が国の高等教育の在り方について文科大臣に簡潔にお伺いいたします。

○国務大臣(平野博文君)



人材ということでございますが、吉川さんがおっしゃられましたように、まさにこの高度情報社会というのは、技術の進歩というのは日進月歩でございます。

そういう意味で、そのことを十分に技術的な観点また法律的観点、トータルな観点からそれを取り扱う人材養成というのが非常に大事であると、こういうことでございます。

今、大学においてその専門的な知見を持つ、そういう教育をこれから充実強化をしていかなければならぬと、かように思っております。

特に、クラウドとか、こういう概念で入ってきますと、今までではディフェンスを中心にしておりましたけれども、ディフェンス以上に攻撃が有利であると、こういう今状況でございますから、その辺、トータルにどうやるべきかという、そういう人材を育てていきたいと、かように思います。

続きの議事録(4/6)は、こちらです。